

広島・下岡田遺跡

- 1 所在地 広島県安芸郡府中町字下岡田
- 2 調査期間 一九六四年(昭39)三月七日～三一日
- 3 発掘機関 府中町教育委員会
- 4 調査担当者 小倉豊文
- 5 遺跡の種類 官衙跡(安芸駅館跡?)
- 6 遺跡の年代 奈良時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

下岡田遺跡は、安芸国府の所在地と推定される広島市東郊、安芸郡府中町の西北端に位置し、西南にはり出した小丘陵の南端に所在する。道路工事中、古瓦の出土から明らかになったもので、一九六三年に第一次調査が行なわれ、一九六四年の第二次調査で木簡が出土した。なお、調査はその後第三次(一九六五年)、第四次(一九六六年)が行なわれ、古代から中世にわたる建築跡が検出され、官衙跡と推定されるにいった。

検出遺構は、古代の礎石建物跡が東西棟(南北二間×東西四間以上)と南北棟(南北六間×東西三間)の二棟、掘立柱建物は倉庫と考えられる総柱建物(三間×三間)が一棟検出された。また、この倉庫の西約四メートルの地点で、深さ五・三メートルに達する素掘の井戸

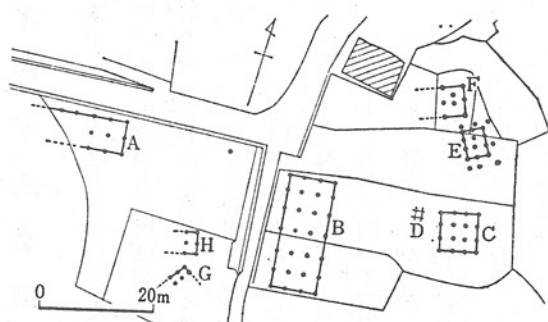
が検出され、木製品とともに木簡が出土し注目された。なお、このほかにも方位の異なる掘立柱建物が数棟検出されているが、これらは中世の建築跡と推定される。

出土遺物は、奈良・平安時代の土師器・須恵器・緑釉陶片および木簡・木函の蓋・曲物・下駄・木片等が出土している。古瓦も多量に出土し、軒瓦は重圏文と重廓文の組合せで、難波宮跡出土のセツトに酷似している。なお、安芸国分寺跡出土と同範の均整唐草文軒平瓦が一点出土している。

以上の遺構・遺物からみて、寺院跡ではなく官衙跡と推定される。建築跡の構造・配置、出土古瓦の様相、木簡の出土からみて国衙・郡衙・駅館跡などの可能性が考えられる。丘陵端部の斜面地に立地し、比較的狭い地域に存在すること、倉庫の少ないことなどからみて、国衙・郡衙を想定するより駅館跡の可能性が大きい。遺跡付近の地名に「早馬立」があること、『日本後紀』大同元年五月丁丑条にみえる「勅、備後、安芸、周防、長門等国駅館、本備蕃客、瓦葺粉壁……」の記事からみて安芸駅館跡と推定されるのではなかろうか。

- 8 木簡の积文・内容
〔肅カ〕
(1) 〔高田郡□□□〕 175×40×7 032
(2) 〔久良下六俵入〕 147×15×4 032

1977年以前出土の木簡(三)



下岡田遺跡遺構配置図 (D: 木簡出土井戸)



(海田市)

小倉豊文『府中町下岡田古代建築群遺跡調査報告』第一集 (府中町教育委員会) 一九六三年
 小倉豊文『府中町下岡田古代建築群遺跡調査報告』第二集 (府中町教育委員会)

9 関係文献

このほか(1)・(2)と同じ形態の長方形の材の一端左右に切込みを入れたもので墨書のみられないもの一点、短冊形で墨痕はあるが解説できないものの一点の合計四点が出土している。
 (1)の高田郡は遺跡の所在する安芸郡の北に接する郡である。
 (2)の久良下は「くらげ」と読むか「くらした」と読むか明らかでない。平城宮跡の出土木簡では「くらげ」は「水母」がみられる。

潮見 浩『下岡田遺跡発掘調査概報』一九六五年度 (府中町教育委員会) 一九六六年
 潮見 浩『下岡田遺跡発掘調査概報』一九六六年度 (府中町教育委員会) 一九六七年
 潮見 浩・松下正司「広島県下岡田遺跡」(雄山閣刊『新版考古学講座』六所収) 一九七〇年 (松下正司)